

## 小さなことから始めてみませんか

廿日市市内の家庭での年間CO<sub>2</sub>排出量は約15万8,000トンです。  
次の6項目に取り組むとその約3%を削減できます。  
一人一人、身近なことから取り組むことが大きな効果につながります。

項目	年間削減量 (kg-CO <sub>2</sub> )	年間節約額 (円)
夏場のエアコンの設定温度を1度上げる	7	460
冷蔵庫の設定を強から中に変更	14	870
テレビの視聴時間を1日1時間減らす	5	400
マイボトルを利用 (ペットボトル製品を週3本削減)	11	15,600
レジ袋を週3枚辞退	5	780
詰め替え製品を利用 (シャンプー・リンス)	2	2,400
1人あたり 合計	44	20,510

※数値は概算



全市民が取り組むと  
**5,050トン**  
※令和8年1月1日現在の人口  
(114,764人) で算出

これは成木5本が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>の量に相当します。皆さんの行動が、森の木を育てるのと同じ働きを生み出しますよ!


他にも  
**生ごみの水切り・生ごみ処理機の利用**

生ごみの約80%が水分です。水分が多い生ごみは焼却に時間がかかり、CO<sub>2</sub>の排出量増加につながります。調理くずは、ぬらすずに、ぎゅっとしぼって臭いや重さも減らしましょう。

生ごみ処理機で処理すると、重さも減り、堆肥として使うこともできます。市は生ごみ処理機購入費補助金の助成を行っています。

詳しくは、市ホームページから



# 地球に優しい暮らし方



環境共生課 ☎9224・循環型社会推進課 ☎9133



二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) などの温室効果ガスは、電気を作る過程や自動車の使用などにより排出され、地球温暖化の原因となっています。逆に森林や植物など豊かな自然環境がCO<sub>2</sub>を吸収します。カーボンニュートラルは、これらの排出量と吸収量を社会活動全体でプラスマイナスゼロにするという考え方です。カーボンニュートラルを目指し、市、市民、企業など「オールがつかいち」で、地球に優しい生活を始めてみましょう。

## 地球が温暖化すると...


津田観測所 (廿日市市津田) での平均気温は記録によると、昭和63年から令和6年の間で、約1度上昇しています。1度の上昇が地球に大きな影響をもたらします。



## 地球温暖化を止めるために

市は、カーボンニュートラルの実現を目指し、令和6年に「地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)」を策定しました。この計画において、令和12年にCO<sub>2</sub>排出量を平成25年度比で51%削減し、令和32年度にカーボンニュートラルの実現を目標としています。

詳しくは、市ホームページを確認してください▶



## 市の取り組み

- **マイボトルの推進と給水器の設置**  
事業者との協定により、市役所本庁舎や市民センターなどの公共施設に13台のウォーターサーバーを設置しています。ペットボトルの利用を減らすことで、プラスチックごみの削減によるCO<sub>2</sub>の排出削減や、海洋汚染の防止につながります。
- **再生可能エネルギーの推進**  
公共施設への太陽光発電設備の設置や、設備導入の補助などを行っています。地域の自然環境や景観、防災面にも配慮しながら、地域で発電したエネルギーをその地域で活用する「地域と共生する再生可能エネルギー」の推進を目指しています。
- **ごみ袋の原料にバイオマス素材を配合**  
家庭用の燃やせるごみ袋 (黄色) の素材に植物を原料とするバイオマスプラスチックを10%配合しています。

市役所本庁舎のウォーターサーバーは1年間で約7,000リットル利用され、約1トンのCO<sub>2</sub>排出削減につながりました。

屋根の上などを活用した太陽光発電は、大規模な開発を伴わずに導入でき、電気代の節約や停電時の非常用電源としても役立ちます。

石油資源の消費を抑制し、焼却時のCO<sub>2</sub>の排出削減につながります。



## 考えてみよう 生物多様性

本市では、地域の自然や生き物を守り、次世代へつないでいくため「生物多様性地域戦略」の策定を進めています。森や海、川などの身近な自然の恵みを活かすことが、地域の自然環境を守ることにともなうという考えのもと、生態系の保全や里山の再生に役立つ取り組みを進め、自然とともに暮らせる地域づくりを目指します。

## おおの自然観察の森

生物多様性や自然の大切さを感じるには、実際に触れてみるのが一番です。おおの自然観察の森は、モリアオガエルや県の天然記念物であるベニマンサクといった多種多様な動植物を観察し、ふれあうことができる希少な場所です。

詳しくは、市ホームページから▶



## 新しいことにもチャレンジ!

### 環境フェスタ (秋頃) に参加

地球に優しい暮らし方を見て、知って、体験することのできるブースや講演会がある環境イベントです。

### 環境講座で学ぶ

川の生き物調べなど、体験型の講座を通じて、楽しみながら身近な環境への理解を深めることができます。  
※イベントの情報などは、随時市ホームページを確認するか、環境共生課まで問い合わせてください



▲可愛川で実施された環境講座の様子

### 食品ロスの削減

「食品ロス」とは、本来食べられるにも関わらず捨てられる食品のことで、家庭からの生ごみのうち、約3割を占めています。食品ロスを削減するため、できることから始めてみましょう。

### 例えば... フードドライブに協力する

米、缶詰、インスタント食品など、家庭で食べきれない食品を集め、必要としている人などに寄贈する活動です。食品ロスの削減と食品を通じた社会貢献につながります。

### 対象となる食品

- ・賞味期限が1カ月以上あるもの
- ・未開封のもの
- ・常温保存ができるもの

寄贈の方法など詳しくは、市ホームページから▶



モックイナイ

### はつかいちエネルギーグリーンセンターへ

#### ● リサイクル講座 (夏・秋・冬頃)

ごみや環境問題に興味関心を持ってもらい、減量化・資源化へ取り組むきっかけづくりを目的として年3回、はつかいちエネルギーグリーンセンターでリサイクル講座を実施しています。

季節に合わせた飾り物をリサイクル資材で作成したり、キエーロ (生ごみ処理器) のように直接減量化につながるものを工作するなど、さまざまな講座を実施しています。

詳しくは、市ホームページから▶

#### ● 施設見学 (平日9時~16時)

見学ルートの要所にモニターがあり、設備の説明を聞くことができるので、気軽に楽しく見学できます。



▲はつかいちエネルギーグリーンセンター (木材港南12-8)

広報はつかいち6月号特集に関して感想をお寄せください▶

